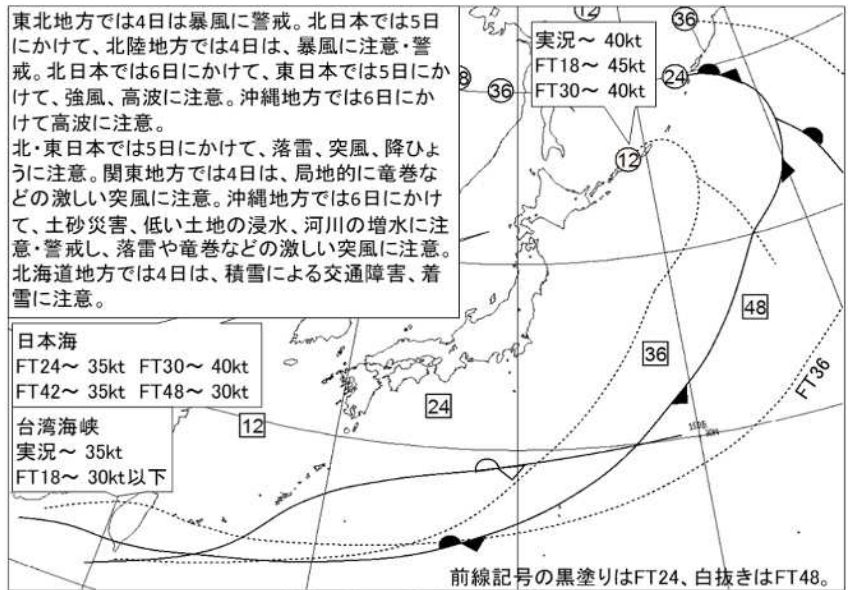


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400～5640mで-24℃以下の寒気を伴うトラフが日本海を東進。日本海から北海道に達した低気圧は、このトラフに対応して発達が進化中。前線は閉塞し、寒冷前線に対応した雲バンドは本州から離れ、日本の東から南西諸島。低気圧近傍の降水域のほか、西日本にかけての日本海側では所々対流雲があり、海上で発雷検知。
- ② 華中に中心をもつ高気圧が東へ移動。①の低気圧の周辺や前線の北側では気圧の傾きが大きく、北～西日本で強い風、南西諸島でもやや強い風を観測し、西～北日本太平洋側沿岸を中心に波が高く、しけている所もある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒気を伴うトラフは、4日夕方から5日明け方にかけて北・東日本を通過。1項①の低気圧は、5日にかけて発達しながら北海道から千島近海を北東進。前線は、5日にかけて沖縄の南で停滞した後、500hPa 5820m付近のトラフの接近に伴い、6日にかけて先島諸島～沖縄本島付近まで西から北上する。
- ② 北・東日本では2項①の低気圧の発達及びトラフの通過に伴い、西日本と南西諸島では1項②の高気圧の張り出しに伴い、4日は全国的に、5日は北・東日本で風が強い。北日本では、日本の東に移動する高気圧と沿海州やオホーツク海の低気圧との間の気圧の傾きが大きく、6日も風が強い。東北地方では4日は暴風に警戒、北日本・北陸地方では5日にかけて強風に注意・警戒。北日本では6日にかけて、東日本では5日にかけて、強風、高波に注意。沖縄地方では高気圧周辺のやや強い風が続き、6日にかけて続く高波に注意。
- ③ 北～西日本ではこれまでに流れ込んだ下層暖湿気やトラフに伴い流れ込む上空の寒気の影響で、5日にかけて大気の状態が不安定。局地的には非常に不安定。北・東日本では5日にかけて、西日本では4日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。関東地方では4日は竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 2項①の前線の停滞や北上に伴い、南西諸島では5～6日を中心に再び大気の状態が不安定となる。南西諸島では6日にかけて、落雷、突風、局地的な激しい雨に注意。沖縄地方では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、竜巻などの激しい突風にも注意。
- ⑤ 北海道地方では低気圧の通過に伴い、低気圧の北側となる地域を中心に4日は、湿った降雪となる所がある。北海道地方では4日は、積雪による交通障害、着雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：北海道5m、東北・関東・伊豆諸島・東海4m。他は広い範囲で2.5～3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。